

令和 8 年度第 1 回小牧市男女共同参画審議会での事前意見等一覧

委員意見	市の考え
審議会等の女性登用率が令和 3 年から比較して減少している点は残念です。手持ちにある名古屋市資料（男女平等参画基本計画 2023）によると国や名古屋市でも令和 3 年から横ばいでありどの地域でも抱えている課題のようですが、小牧市においては減少しています。生じた理由が知りたいです。	本市の女性登用率は令和 3 年度と比較して低下している状況にあります。その要因としましては、専門性を要する分野における委員改選のタイミングにおいて、専門分野や所属団体からの推薦状況、また管理職をあて職として委員を選任する場合があること等の影響を受け、結果として女性委員の比率が低下したことが一因であると考えています。 なお、全国的にも横ばい傾向が見られる中で、本市においても、年度ごとの委員構成の影響を受けやすい面があります。今後は更に委員推薦の段階から女性参画を意識した働きかけを行い、改善に努めてまいります。
がん検診受診率が目標値に達していないようです。この数値はどのような計算によるもののでしょうか。名古屋市資料では子宮がん 66.6%、乳がん 53.3%とあり数値が乖離しているため知りたかった次第です。	「小牧市がん検診」を受診した人/該当年齢の住民で計算しています。 対象者は以下のとおりです。 子宮がん検診：20 歳以上の住民 乳がん検診：40 歳以上の住民
基本目標Ⅲの施策の方向 4 について：がん検診の受診率が職域での受診者がいることを考慮	今後は申込方法の改善や周知を徹底するなどして、受診率向上に努めてまいります。

しても低い。短時間労働をしているパート職の人が職域で受診しているとは考えにくい。コロナ禍より受診率が低下しているのは大きな問題だと思います。	
男女共同参画社会に関する用語について 認知度・理解度が低いままなものもあるが、向上した言葉もあるので、周知された理由・方法を探って他の用語の認知度・理解度向上のために生かせると良いと思います。理由がわかっているならば教えてください。	認知度（＝「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけは知っている」）が高くなった用語及び要因は以下のとおりです。 ・ジェンダー：ニュースやSNSでの使用の広がりを背景に“ジェンダー”という用語が一般的な言葉として浸透しました。 ・LGBTQ：本市における「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」のような具体的施策の導入などにより、用語にふれる機会が増えました。 ・ワーク・ライフ・バランス：コロナ禍を契機としたテレワークの普及により働き方が大きく変化し、『どこで・いつ・どのように働くか』が生活に密接に関わるようになりました。 認知度が低い「男女共同参画」等の用語について、広報などをする際に「家事・育児の分担」や「働き方の選択」などの日常の具体的なわかりやすい言葉に添えて発信する等の手法を工夫していきます。

基本目標Ⅰの施策の方向１について：令和２年度がコロナ禍だったこと、昨年度との比較からみると、全体的に低下しているように感じます。計画が上手く推進されていると感じにくいのですが、新計画では「過程への女性の参画拡大」と表現が変わっています。一歩進んだ表現に感じますが、どのような評価がなされ、表現が変更されたのか知りたいです。	これまでの取組に対する評価としましては、未達成の項目もあります。そのため、国・県との政策の一貫性を確保し、推進するため表現を変更します。 また、女性の参画拡大は、男女共同参画社会の実現に向けた重要なステップであるため、「男女共同参画の推進」という広い概念から、より具体的な「女性の参画拡大」に焦点を絞ることで、施策の方向性をより明確にしたものです。
施策の方向４の女性・若者にも選ばれる地域づくりとは具体的にどのようなことを考えられているのでしょうか。	具体的には、女性や若者が地域で活躍するためには、まず社会全体に根付いた固定的な性別役割分担意識を改善することが必要であるため、学校教育での意識啓発や男女共同参画週間などの啓発活動の充実を継続します。加えて、地域活動への参画機会の拡大に取り組み、誰もが個性と能力を発揮できる環境づくりを進めていきます。